

②企業大学訪問

私たちのグループでは文系、特に経済系の分野に興味のある人が集い企業訪問を行った。訪問させていただいたのは有限責任監査法人トーマツ様。1968年に誕生して以来、合併、統合などを経て人員8000人、業務収入1400億円を超える大手公認会計士事務所だ。今回の研修では公認会計士という職業を働いている方たちの目線で教えていただいた。

「公認会計士」という言葉をはじめて耳にしたのは中学3年生のときである。当時、私は将来の自分の姿についてまったくビジョンを持っていなかった。ただぼんやりと「文系にすすもうかなあ」というくらいにしか考えておらず、ただよい高校、よい大学になんとなく進学すれば良い人生をおくれるのかなあと思っていた。ある日、仲の良い友達と将来の話をした。彼は「どこの高校に入ってどこの大学を出て、この職業についてこういう仕事をしたい。」と私に語ってくれた。そして彼は「じゃあ、君は将来どうしたいの？」と私に尋ねた。そこで自分の将来をまったく考えていないことにあせりを覚え、自分の興味のあるような仕事を調べることにした。文系の中でも経済学に興味のあった私は、経済関係の仕事を片っ端から調べていった。そこで初めて「公認会計士」を知った。正直、最初に「公認会計士」と聞いたときには「なんだそれは？そんな仕事あるのか？」と思った。好奇心旺盛な私は「どんなことをやっているんだろう」と思い、本やインターネットでより詳しく調べてみることにした。そこで分かったのは企業の出した決算書を第三者の目線で監査するということ。人と話すのは割と得意なほうだし、企業のトップや重役と話ができるということで「これは自分にピッタリな職業ではないか」と考えた。ただ「百聞は一見にしかず」というようにいくら情報を集めても自分の目で見なければ詳しいことが良くわからなかった。そして一年後、この研修で現役の公認会計士から直々にお話を伺える機会を得た。自分の身の周りで公認会計士の人がないため、とても嬉しかった。

訪問当日、丸の内ビルに入ると役員の人が迎えてくれた。エレベーターにはなんと株価指数の数値がリアルタイムで表示されていてとても驚いた。大きな会議室に通され、ひとしきり自己紹介を終えるとさっそく説明をしていただいた。

まずは公認会計士の仕事を詳しく教えていただいた。公認会計士の仕事は主に2つ。

一つ目は会社の資金の出入りや財産状況などの会計の報告をチェックする「監査」である。小さな会社では3人程度、大手の大企業などでは2000もの人がグループを組んで仕事をする。チームで依頼された会社に行き、証拠となる資料を読んだり、計算が正しいか再確認したり、会社の人に質問したりして報告書が正しいかどうか審査する。そして決算書が正しいければ監査報告書を提出して仕事が終わる。

二つ目はいろいろな会社で働き、アドバイスをすることである。公認会計士は、会計や税金をはじめ、会社の経営など幅広い知識をもっているため監査に限らずいろいろな会社で仕事をするができる。会社の経営報告を公認会計士が作ったり、会社の税金計算を確認したりもする。また、会社の会計についてのコンサルティング業務をするこもある。

この他にもトーマツでは株式公開（IPO）、エンタープライズリスクサービス、グローバルサービス、IFRS関連サービス、ファイナンシャルアドバイザーサービス、税務、法務、公共向けサービス、金融コンサルティングサービス、認証・検証業務などと幅広い分野で多彩な仕事を手がけていることがわかった。

トーマツが監査をする「クライアント」と呼ばれる企業は二百をこえており、水産・農林、建設業、食料品、繊維製品、パルプ・紙、科学、医薬品、石油・石炭製品、ゴム製品、ガラス土石製品、鉄鋼、非金属、金属製品、機械、電気機器、輸送用機械、精密機械、電気・ガス、陸運業、海運業、倉庫・運輸関連会社、情報通信、卸売業、小売業、銀行業、証券業、保険業、不動産業、サービス業とあらゆる分野での信頼のもとに仕事をしている。

トーマツなどの監査法人で七年以上仕事をし経験を積むと。独立し自分で会社を経営する「独立監査法人」となって起業する人もいる。「独立監査法人」となると国内だけでなく海外の専門の公認会計士として海外で活動する人もいる、ということもわかった。

この他にもトーマツでは環境や社会への取り組みやボランティア活動も行っている。例えば東日本大震災の震災児が社会人として立ち立ちできるまで、支援の一環として社会福祉法人中央共同募金会の「東日本大震災被災児支援事業」を通じて資金提供をしている。この他にも、被災地の住民の方々との交流や復興を目指す企業のサポート、災害地域での植林や清掃活動をしている。

また、どうすれば公認会計士になることができるのか、ということも教えていただいた。公認会計士となるには国家資格に合格し、資格をもらわなければならない。試験に合格するのはほんの一握りの人たちだけなので、最低でも2年間は試験勉強をしなくてはならないということだ。しかし、ただ国家資格に合格しただけでは公認会計士にはなれない。国家試験に合格した後、会計や監査の仕事を二年間し、日本会計士協会が講習会に3年間通い修了考査を経て正式な「公認会計士」となれるのだ。自分が思っていたよりも会計士になるのは大変で努力が必要なことがわかった。

今回の研修を通して今までぼんやりとしかわからなかった「公認会計士」という仕事を明確に知ることができた。自分が思っていたよりも現実は厳しく、公認会計士になるためにはさまざまな勉強をして多くの経験を積むことが必要だということを知った。しかし、仕事に就くのが大変な分、その仕事はとても重要で時にはクライアントの会社の命運を分けるような大きな仕事をするができる。

公認会計士は第三者視点で企業を監査する、企業にとってとても大切な職業である。働いている方々はその仕事に誇りと責任を持って働いていた。今回、教えていただいたことを忘れず、これからの職業選択の一環として役立てていきたい。